

題材名 「リズムの特徴を捉え、ポピュラー音楽を味わおう」（第3学年 B鑑賞）

■本事例のポイント

1. ビートやリズムの働きを主体的に捉えて、ポピュラー音楽のよさを味わうために、創作の活動を行った。
2. 生徒同士の作品を批評し合うことでリズムの知覚・感受をし、実感を伴った知識の習得を目指した。

■題材の目標

リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、曲想と音楽の構造や、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

■題材の指導計画（全4時間）

第1時 「ポピュラー音楽のリズムの理解」

- ・8ビート、スwing、クラーベのリズムについて、その働きや特質を理解する。

第2時 「創作活動によるリズムの深い理解」

- ・それぞれのリズムを用いてメロディに合わせたリズム創作を行い、リズムについて理解を深める。

第3時 「リズムとポピュラー音楽の関係を考える」

- ・リズム創作を通して、ポピュラー音楽にどのような影響を与えていているのかを考える。

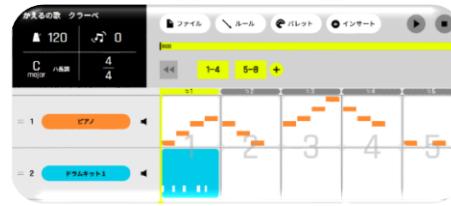
第4時 「ポピュラー音楽の意義について考える」

- ・なぜポピュラー音楽が広く人々に親しまれてい るのかを考える。

■本時の概要

目標 ポピュラー音楽の様々なリズムを用いた創作活動を通して、リズムの働きや特質について理解することができる。

①かえるの歌に合わせ、8ビート、スwing、クラーベのリズムを用いた創作活動を行う。



②作りたい曲のイメージに近づけられるリズムを選択し、ポピュラー音楽を聴きながら創作活動をする。

③掲示板アプリに作品と工夫した点を投稿し、他者参照したり全体で共有したりしながら批評する。

前回変えたりズムは少しサンバのようなリズムな気がしたので消すことにして、伸びている部分は同じように音を伸びました。最初と最後は多少の違いはまとまり感をリズムを揃えた。

2025年9月9日
間中のパートが良いと思いました。

2025年9月9日
書いてあるサンバ感が結構強く工夫されているどこがいいリズムになってい いと思います



■学習調整をしている子供の姿

子供が自らの学習を振り返る場面の設定

リズムがその音楽を形づくる土台となっていて、もともとのよさを引き立たせる影響を音楽は受けている。色々なリズムがあり、多様なため、色々な人に親しまれているのだと思った。

裏打ちのリズムだったり、一定のリズムだったりと、色々なジャンルがあるから自分の好きな音楽を探せるのが、ポピュラー音楽だと思った。そこから自分の好きな音楽の世界が広がり、また新しい音楽ができることで、音楽に親しみをもつ人が増えるのだと思った。

ポピュラー音楽に使われているリズムや楽器、メロディーが陽気な感情を生み、世界中の人を虜にさせ、長年愛されているため、ポピュラー音楽は人々に親しまれていると思われる。特に8ビートなどは簡単にのりやすく、陽気になれるため、人気になったと考える。やはりクイーンのような有名なアーティストやバンドのヒット曲は踊りやすいリズムだったりするらしい。

創作活動をすることによって、鑑賞の新たな気付きを得ることができた。

かえるの歌 8ビート (1)

音のタイミングをずらして、途中のリズムを少し変えました。

1ヶ月前

リズムが一定じゃなかったり、音の種類がたくさんあるところがオリジナリティのある音楽になっていいと思いました。

1ヶ月前

太鼓のリズムがカエルの歌とあっていいと思います！

1ヶ月前

リズムや楽器が複雑じゃないのにそこに変化をもたせていたりしていいと思った



■指導と評価の工夫

①リズムの働きや特質について、実感を伴って理解し、鑑賞教材と主体的に関われるよう、鑑賞領域の授業に創作活動を取り入れる。

- * それぞれのリズムの雰囲気を捉え創作活動を行うことで、鑑賞時にはリズムに着目することができる。
- * 作った作品について紹介し仲間と批評することで、リズムの違いによる音楽の雰囲気の変化を主体的に感じることができる。
- * 創作活動の経験により、鑑賞教材と主体的に関わり、より深く作品を味わうことができる。

②掲示板アプリを使用して、考えの共有と批評を行う。

- * 他者の作品を視聴し、気になる作品は、作者のところへ行って創作の意図と、使っているリズムをどのように感じているかについて詳しく聞くことができた。
- * 交流して得た気付きから作品を直し、自分の使ったリズムの特質についてまとめることで、音楽の構造に対する理解を深めることができた。

■成果（○）と課題（▲）

○創作活動の経験から、鑑賞教材のよさについて具体的な根拠をもち、他者との関わりの中で価値意識を再認識することができた。

▲作品に対するコメントを基に対話を発展させたり、作品をよりよくしたりすることができた生徒は一部に留まった。生徒が、音楽的な見方・考え方を働かせることができる創作活動の改善が課題である。